

平成 21 年 11 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社 クラレ
 代表者名 取締役社長 伊藤 文大
 コード番号 3405
 上場取引所 東証第一部
 問合せ先 IR・広報部長 藤波 智
 TEL (03) 6701-1070

平成 2 2 年 3 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 業 績 予 想 と の 差 異

および通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年4月30日に公表しました平成22年3月期第2四半期連結累計期間業績予想と、本日公表の同期業績に差異が生じたのでお知らせします。また、通期業績予想を修正しましたので、あわせてお知らせします。

記

平成22年3月期第2四半期連結累計期間業績予想数値との差異

(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月30日発表)	160,000	8,000	7,000	4,500	円銭 12.92
今回実績値(B)	157,065	9,758	9,409	5,221	15.00
増減額(B-A)	△2,934	+1,758	+2,409	+721	
増減率(%)	△1.8%	+22.0%	+34.4%	+16.0%	
(ご参考)前第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	209,319	23,273	22,251	13,407	38.50

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平21年4月30日発表)	340,000	20,000	17,000	10,500	円銭 30.15
今回修正予想(B)	330,000	23,000	21,000	12,500	35.90
増減額(B-A)	△10,000	+3,000	+4,000	+2,000	
増減率(%)	△2.9%	+15.0%	+23.5%	+19.0%	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	376,777	29,280	26,797	12,984	37.29

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値との差異（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月30日発表)	75,000	5,000	5,000	3,000	円銭 8.62
今回実績値(B)	83,233	6,596	7,457	4,395	12.62
増減額(B-A)	+8,233	+1,596	+2,457	+1,395	
増減率(%)	+11.0%	+31.9%	+49.1%	+46.5%	

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月30日発表)	160,000	13,000	12,000	7,000	円銭 20.10
今回修正予想(B)	175,000	15,500	15,500	9,400	26.99
増減額(B-A)	+15,000	+2,500	+3,500	+2,400	
増減率(%)	+9.4%	+19.2%	+29.2%	+34.3%	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	182,242	15,270	16,423	6,719	19.29

修正の理由

- 1) 当第2四半期連結累計期間は液晶向け材料の回復、コスト削減等の内的努力により、売上高は未達ながら、利益は予想を上回りました。
- 2) 通期業績予想については、一部事業の回復の遅れや、円高及び原燃料価格高騰の影響が想定されるものの、総じて期前半の増益基調が今後も続くと予想されることから、上記の通り修正します。

各事業の期後半の前提は以下の通りです。

ポパール樹脂はアジアでの需要回復が進む一方で、欧州は厳しい状況が続く見込みです。光学用ポパールフィルムは堅調に推移する見込みで、増設した倉敷事業所の新ライン（年産1,500万㎡）を稼働させる予定です。＜エパール＞はアジア、国内需要の回復基調は持続するものの、欧米は回復のペースが遅いと見ています。メタクリル樹脂は導光体等での回復が進む見込みです。イソプレンは、エラストマー、化学品・ファインケミカルとも、アジアでの市況回復は続きますが、欧米での回復は鈍いと見ています。

ビニロンはFRC用途が回復に転ずる見込みですが、本格化には時間がかかると見ています。＜クラリーノ＞は靴、衣料等の需要は回復せず、厳しい状況が続く見込みです。なお、次世代環境対応型人工皮革の量産プラント稼働を開始し、市場開拓を進めます。

メディカルは堅調に推移、＜ジェネスタ＞はLED反射板用途の続伸と電気・電子材料の回復を見込んでいます。

なお、当社プラントの定期修理は当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）に集中しており、当期後半（平成21年10月1日～平成22年3月31日）はその影響が減少します。当期後半の原燃料価格は、国産ナフサを43千円/k1と想定します。原燃料価格高騰に対しては、鋭意価格改定を進めますが、利益への影響は避けられない見通しです。平均為替は米ドル90円、ユーロ135円と想定しています。

平成22年3月期 通期連結業績予想数値（事業の種類別セグメント内訳）

売上高

（百万円）

	化成品・樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	合計
第2四半期連結累計期間実績	95,058	38,574	23,432	157,065
通期予想	200,000	80,000	50,000	330,000

営業利益

（百万円）

	化成品・樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	消去又は全社	合計
第2四半期連結累計期間実績	16,772	△1,263	1,533	△7,283	9,758
通期予想	36,000	△2,500	3,500	△14,000	23,000

注) 上記の予想は、本資料の発表日現在における諸前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後種々の要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上